

-----<医療への貢献を目指す技術者の皆さんへ>-----



医療への貢献を目指す技術者の皆さん。初めまして。島津製作所の田中耕一です。

もう30年以上前になりますが、皆さんと同年代の頃、私は「社会人になれるのか？」かなり不安な気持ちながらも、「大学で学んだ電気工学の知識を活かし、医療に役立ちたい」と思っていました。父が職人だった事もあります。ですから、還暦近くになった今も医療関係技術者の道を選んだ皆さんが羨ましい、と思います。

そんな思いがあったため、医療機器開発を行っている会社の1つを選んだのですが、配属は質量分析という初めて聞く装置の開発。しかも電気とは全く異なる化学の実験担当。「学んだ事が役立たない」自分の人生は失敗、とってしまいました。

しかし、素人ながら化学実験を楽しめる状況の中で、失敗と思った実験が化学賞受賞対象となった発見に結びつきました。電気工学で学んだ発想が頭の中にあり、分野をまたいで発見が行えた、と思います。この発明が発端になり、世界の研究者・技術者の多大な努力によって工業製品の開発や医学・薬学等に幅広く役立っている事を嬉しく思います。しかも装置は電気回路で制御されていますので、部下が率先して開発している装置に今も自分なりの提案ができる事が楽しくもあります。

分析装置は、医学・薬学・生物学・化学・物理・数学・電気・情報・機械・素材・等々、本当に様々な分野の人々が協力して開発しています。たとえある専門的な発明が行えたとしても、他分野の一般の人々に分かり易くコミュニケーションしなければ役立たせる事が困難です。日本はチームワークに優れている、といわれてきました。他の分野の知恵を取り入れることで、他の国では進め難い発展が行える素地が沢山あります。

これから“チーム医療”が世界に広がって行く事が期待される、と聞きました。医学検査のみで考えるよりも、分析・医療機器の開発者、検査技師やリハビリ担当者までも含めたチームで人々の健康に貢献できる事、まだまだ沢山あります。

様々な分野に広がる、これからの皆さんの活躍に大いに期待しています。



1985年当時 質量分析装置開発中の島津製作所 中央研究所にて